

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602033		
法人名	(有)コスモピア		
事業所名	コスモピア高良内		
所在地	久留米市高良内町3919-5		
自己評価作成日	平成25年6月10日	評価結果確定日	平成25年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4071602033-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成25年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

利用者様は近隣で提携医のつむら診療所の津村先生とホームとの連携により、健康管理面では、安心して過ごす事が出来ます。又、市の公園が隣接しており、静かで穏やかな環境で日常的に外気浴や散歩が無理なく楽しめます。季節によっては、野菜作りもできます。食事は、季節の野菜を取り入れ家庭的な味付けを心懸け、要望(リクエスト)にも添えるように柔軟に対応しております。スタッフも人生経験豊富な年配の方(60代)が多く家庭的な雰囲気笑顔で共にゆっくりとした時間を過ごしています。月1回開くスタッフ勉強会では利用者様に添うコミュニケーションの方法について繰り返し勉強しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米市内から東に九州自動車道を越え、青峰団地の手前の一角において、広い敷地の中で1ユニットずつ別棟で建てられたグループホームが「コスモピア高良内」である。事業所の真横には市の公園があり、自前の庭のような感覚で気軽に散歩も楽しめ、周囲には緑も多く、季節の変化を身近に感じ取ることが出来る。近隣住民も敷地を気軽に通って公園を訪れており、交流のきっかけにもなっている。近くには母体法人系列のデイサービスがあり、以前はレクリエーションなどの交流も行っていた。認知症の方々に日々、穏やかに過ごしてもらうことを願い、最近ではマンツーマンによる外出支援など、個別ケアに力を入れており、趣味や経験を生かして、野菜作りや裁縫、囲碁なども楽しまれている。職員も、年間の研修プログラムに沿って勉強会や自己学習の機会をもって技術向上に努めており、毎月レポート報告が行われていた。開設から10周年も近付き、今後も益々地域交流の発展と、存在感の高まりが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念、方針、私達の使命」を毎日朝礼時に、全員で唱和し、仕事に取り組む姿勢を日々確認している	開設時に代表が作った理念は入り口などに掲示され、毎朝の唱和によって職員も1ヶ月くらいで暗唱できるほど浸透している。朝礼では挨拶や倫理に関する小冊子「職場の教養」の感想発表を行っており、今では根付いて職員も習慣的に行えるようになった。	毎朝の活力あふれる朝礼によって、理念や挨拶は職員によく共有されている。今後は理念に関して話し合う機会をもって、今の実情にそった理念の表現や伝えたいサービス、認知症介護に関しての思いが込められることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域敬老会の参加、散歩時、隣接する公園や地区の共同菜園を利用する方々と交流がある。近所にあるスーパーへ買物に出かけている。隣接する特養の夏祭りへ毎年参加している	民生委員や、近隣の事業者から近隣の高齢者の情報や地域行事の情報などを頂いている。地域敬老会に招待される利用者には職員がついて支援している。菜園などを通じて近隣の住民と交流し、民生委員の見学会や地域ボランティアの受け入れなど、日常的な交流も良く持たれていた。	地域の関わりをさらに深める為、自治会の加入や、公民館の餅つきなどの手伝い等、地域密着施設としての積極的な関わりが望まれる。また、地域を招いた行事などで情報発信が行われることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、民生委員さんに事業所の取り組みをお知らせしている 隣接する施設と運営推進会議の相互参加を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告として、サービスの様子を伝えたり、外部評価後は、評価結果を配り、意見を聴いている 地域の参加を呼び掛け、ホームの状況を知って頂けるように働きかけている	2カ月毎に開催し、市職員、地域包括、民生委員、家族などが参加されている。地域や市も積極的に参加され、質問やアドバイス、地域情報なども頂いていた。近隣の地域密着施設の運営推進会議には相互に参加して意見交換し、交流を持っている。	会議は活発に運用されているが、家族の参加が固定してきているので、議事録報告を行って関係者に運営推進会議を浸透させたり、ホールを使った開催で利用者・家族が参加しやすいように働きかけて参加の幅が広がることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者、包括支援センターと運営推進会議の場だけでなく、疑問点などは、積極的に出向き相談して、協力を受けている	運営推進会議でも積極的に関わっており、同じ担当者が来るため馴染みが深い。地域包括からは紹介や困難ケースの相談を受けたりもしている。介護保険申請時などは窓口を訪問し、市主催の連絡会などでも顔を合わせる機会があり、質問などもしやすい関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会でとりあげ、職員の認識を深める努力をしている、やむおえない状況がある場合には、アセスメントを十分に行い、家族に意見を聞き、経過報告を密に行っている	以前は車いすベルトやベッド柵の利用もあったが、今はセンサー利用も含め一切の拘束を行っていない。玄関の施錠も行っておらず、見守り、付添によって自由に外出できる。ユニットが離れており、行き来の際は職員同士連携をとっている。内部研修によって事例検討なども行い、管理者からや、職員同士でも注意をしあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において、管理者、職員とも認識を深め、十分に注意を払っている、見過ごす事がないように気をつけている 外部研修に積極的に参加している		

自己・外部評価表 (GHコスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会において、又は、資料回覧などで管理者、職員とも認識を深め、個々の必要性がある時には、対応できるように準備している 現在、日常生活支援事業利用者1名おられるが今後成年後見制度利用について、社協の方と相談し進めて行く予定である	日常生活自立支援制度を利用している方がおり、今後は成年後見制度も含めて、関係者と協力して支援していく予定である。年に1回の内部研修で理解を深めており、基本的な制度の理解は出来ている。パンフレットは玄関にも設置して家族も自由に持ち出せるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、担当者がゆっくり丁寧に説明して理解、納得を図っている 又報酬改定時には速やかに説明し文書で同意をもらっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、介護相談員さんに来てもらい、利用者が苦情、相談を伝える事ができる機会を設けている 家族へは、面会時、担当者会議時、プラン説明時に意見要望を聞いている	介護相談員が毎月2名訪問され、傾聴ボランティアが行われており、以前はその方を通して意見などがあげられることもあった。利用者も積極的に話されている。家族とも直接コミュニケーションをとってサービス改善を行い、本人にも説明、納得してもらった上でサービス提供を行うようになった。毎月担当職員から手紙による報告をしており、よく連絡がとられている。	日頃から家族や、利用者とはよく連絡がとられているが、さらに幅広く意見を引き出すために、意見箱の利用を見直したり、家族会を花見や敬老会と同時開催するなど相互交流する機会がもたれる事に期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、意見があれば話し合いをしている、ユニットリーダーを通じて意見や提案を出しやすい環境を作っている 研修レポート等で提案を記入してもらいそれらの意見を反映させている、 年に数回アンケート、又は、自己評価表を記入してもらいその中での提案などを参考にしている	業務内容や、疑問点など気付いたことは上長に相談して、必要があれば全体で話し合いの機会を持っている。それによって車イスの方のケア方法や、食事介助の方法を改善したり、環境整備を行ってきた。年に3、4回職員アンケートを取り、ミーティングによっても改善要望が取られている。パート職員も含めて意見の言いやすい職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は勤続年数だけでなく、個々の努力などを把握して査定している、労働日数なども個々の希望を反映できるようにしている 個々からの相談が挙がった時は即座に対応している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、人柄ややる気を重視しており、年齢や性別による差別は行わないようにしている、職員は働くなかで、得意分野を後輩に伝授するなど、個々がいきいきと働けるように又、職員間の良い関係が生まれるよう配慮している	職員の年代は幅広く、男女もバランスよく配置されている。特技や経験も活かされ、調理専門の職員がいたり、レクリエーションの提案などもされている。外部研修も案内があり、希望するものに参加が出来る。休憩時間や場所も確保され、シフトも希望を考慮して作成され、職員が分け隔てなく、働きやすい職場環境になっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会で、人権に関する勉強を取り上げている、利用者様を尊重する姿勢については、運営理念を毎日唱和する時にも確認している、倫理研究会発行の「職場の教養」を朝礼で倫読し皆で感想を言い合っている	毎日の朝礼で扱う「職場の教養」という小冊子で、人権や倫理に関する理解や関心を深めている。内部研修でも年に1回は倫理や法令に関して取り上げ、職員で学習している。	事業所全体での理解を深める為に、外部研修で学んだ内容の伝達や資料回覧などによって知識が共有されることが望まれる。また、人権学習の関連施設から資料の貸し出しやDVDの閲覧などによって啓発が進められることにも期待したい。

自己・外部評価表（GHコスモピア高良内）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会、久留米市介護福祉サービス事業者協議会、県社協が主催する研修会に参加できるよう努力している、研修に行けなかったスタッフには資料を回覧し感想を書いてもらい勉強できるようにしている 月1回のスタッフ会で勉強会の時間を設けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の地域密着型サービス生活圏域事業所交流会に参加し他グループホーム職員と交流する機会がある 隣接する介護施設の運営推進会議に出席している		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、出来るだけこちらから出向き入所前の環境を確認させてもらい、直接本人と面会し、要望に耳を傾け少しでも不安が軽減できるよう配慮している、又、入所前になるべく本人に見学して頂くようお願いし少しでも馴染み関係が出来るように配慮している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、事前に十分にお話を伺う時間を設け、関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応としては、本当にご本人にとってグループホーム支援が一番いいのかを念頭に置いてご家族ともお話するよう、心掛けています。利用者様、ご家族の立場に添って客観的に他のサービス利用手段もある事もお伝えしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に仕事をしたり、(野菜の皮むき仕込み、洗濯たたみ、玄関掃除等)外気浴、外出、散歩をしたりする中で喜怒哀楽を共感している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、その都度、ケアの面で相談したり、協力をお願いしたりしている又ホームは本人と家族の橋渡しの役割をしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くのお店に行ったり、実際自宅まで一緒にいくなど、家族と相談し可能な限り支援している	入居時に本人や家族から、今までの関係を聞き取っており、住み慣れた自宅近隣や、行きなれた美容室への訪問に、職員が送迎して支援したり、家族に迎えに来てもらったりしている。日頃の会話からも、生活歴を聞き取り、地域や関係者とも協力して支援を行い、知人や友人にも気軽に訪れてもらっている。ここ1、2年で個別対応も充実して対応されている。	

自己・外部評価表（GHコスモピア高良内）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、特定の人が孤立する事がないよう支援している、仲間づくりには十分配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の病院や、退所後の施設に面会したり、相談員さんや、手紙を送ったりして家族の方に経過を伺ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向について、入所前に十分にアセスメントしている、入所後もその都度希望を聴くようにしている	初回にアセスメントを行い、本人、家族から思いや意向を聞き取っている。その後も6ヶ月後や更新時に取り直している。アセスメントはケアマネージャーと担当職員が一緒に行い、職員の素案をケアマネージャーが監修する形で現場に即した意見の聞き取りを行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、出来る限りこちらから出向き入所前の生活環境を確認（本人聞きとり、らしきシート記入）している、サービス利用の経過なども前利用事業所に確認し情報提供をお願いしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り簿において、情報を皆で共有している、出来る事、できない事についてもアセスメント表にて現状把握している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス時や担当スタッフ、看護師、ケアマネ、主治医を交えての話し合いや相談、家族の面会時に意向を確認し、介護計画を作っている	担当制により、職員が自分の担当する利用者のサービスを振り返り、情報を共有してチームカンファレンスを行っている。モニタリングはケアマネージャーが毎月行い、それをもとにして随時計画の見直しも行っている。ケアプランの目標と実施記録は簡略して番号で紐づけるようにしており、ケアにも反映させている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り簿を活用し日々の情報の共有に努めている、月1回のスタッフ会において、担当するスタッフがそれらの記録を活用し現状報告を行う事で介護計画の見直しにつながっている。		

自己・外部評価表（GHコスモピア高良内）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気晴らしの支援などには、ボランティア団体の活動に登録して、利用したり、近くのデイサービスイベントがある時は、参加している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前タウンモビリティという地域のボランティア活動への参加などを行っていたが、現在は利用していない		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段は、提携医のつむら先生にほとんど診てもらっているが、定期的に専門医を受診している人も、他病院を受診する場合も、紹介先の病院の希望を家族にきいて、つむら先生に紹介状をお願いし、さらに連携をはかっている	提携医は非常に協力的であり、相互に深い信頼関係が築かれており、入居者の紹介を頂くこともあった。提携医は毎週往診に訪れ、必要に応じて家族とも協力し、専門医への通院介助も行っている。受診結果は毎回家族に報告し、申し送り職員間でも共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、関わるなかで、変化や気づきはその都度看護師に伝え、必要時医師との連携をとっている、対応は迅速にできている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通じて連絡をもらい、病院の連携室と連絡をとるようにしている、必要時は出向いてカンファレンスに参加している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取り支援についての話を一度はする事にしている。その後必要時に医師から話し合いの時期についてのサインをもらった時に再度希望されるかの確認を行っている 提携医の献身的な支援と看護師、家族、スタッフとの連携により看取り支援を行っている	提携医との綿密な相談の上で、判断を下すが、緊急時の対応にも非常に献身的であり、本人・家族の希望があれば最期まで看取るサービスを行っている。これかでも複数例看取った事例もあり、入所時にも丁寧説明をし、同意書をもっている。看取り計画書も作成しており、医師との協力のもと、職員も連携をとって対応している。	提携医が非常に協力的であり、今までの事例から職員も経験を積んできているが、今後はたんの吸引や医療技術の研修などで、さらなるターミナルケアの技術向上が図られることに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応法について、勉強会でも取り上げ皆が周知するようにしているが、職員全員が実践力を身につけるよう、繰り返しシュミレーションなどを行い勉強していきたい		

自己・外部評価表（GHコスモピア高良内）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会を行っている 第2回避難訓練を行っているが近隣との連携があまりとれていない。今後協力体制をとりたい	年に2回、消防署の立会いの下、総合訓練を行っており、夜間想定も含めて非常時の対応に備えている。日頃から勉強会などでも避難手順について理解を深めており、参加できなかった職員とも、資料回覧・報告で共有していた。以前は近隣施設の避難訓練にも参加していた。	事業所内での情報はよく共有されているが、今後は近隣住民や、近隣施設にも参加の呼びかけや協力体制の構築を行うことが望まれる。また、緊急連絡網に家族もいれて、非常時の連携がとられることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗や後始末などさりげなく対応している 又個人を尊重した言葉がけを行うよう皆で実践している	自尊心に配慮した対応や、ケアに対しての心がけを、日頃から管理者が注意指導を職員に行っている。日々の申し送りや勉強会でも対応に関しては繰り返し学習している。認知症ケアにかかわるコミュニケーションを集中して学び、ケアに活かしている。	トイレ介助や、着衣交換の際のプライバシーへの配慮と、トイレ扉開閉などの見守りと安全管理の両立がなされていくことが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に、希望を伝えてもらえる信頼関係づくりを大事にしている 自己決定出来る環境を整え支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のミーティング時に各利用者様の状況を把握し、希望を聞きながらなるべく利用者主体の暮らしができるように個別支援を心掛けている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着は、本人に服を選んでいただけるよう支援したり、理容については2ヶ月に一度訪問理容にきてもらっている。希望を伝えカットしてもらっている。支援のもと、いきつけの美容室に行かれる方もいる なるべく服は自分で選んでもらうように買物への		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望や力に合わせて、できる事をスタッフと準備したり、片付けをししたりしている	メニュー作成は利用者の希望を取り入れながら職員で話し合い、職員が調理を行っている。週に1回は職員も同じ物を食事しており、調査時も会話が弾み和やかな食事が楽しまれていた。メニューも野菜を中心にバランスよく配慮され、利用者の箸も進んでいた。手伝えることは利用者も手伝っており、調理レクなども行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量については、医師と相談してできる範囲で個別に対応している 希望を聞きながら献立作りをしている		

自己・外部評価表（GHコスモピア高良内）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、訪問歯科の先生達から、ほぼ全員が指導を受け毎食後行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は、オムツ対応している方についても、昼間は可能な限り、トイレでの排泄支援をしている、声かけ誘導により、自立を促すようにもしている	排泄の失敗があった際も周囲に配慮してさりげなく誘導し、介助を行っている。排泄チェック表を利用してリズムを把握してトイレ誘導を行っており、入居時に失敗の多かった方も失敗が減り、布パンツに代わって負担が軽減された。状態によって最適な介助方法を検討しており、便秘の際にも主治医の指示を仰いで適切な対処を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日食事や水分量を記載し、個々の状況把握を行うとともに、散歩やラジオ体操等運動を促し予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は事業所側で決めているが順番などについては、希望を聞いている、入浴剤などで楽しめるようにしている	利用者ごとの偏りがないように、週2、3回の入浴日を設定して、午後からの入浴を行っている。順番も本人の気の済むように配慮している。全介助の方も二人体制で介助し、難しい場合は清拭で保清している。利用者が拒否なく入浴を楽しんでおり、冬場は入浴剤などで変化をもたらしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望、状況により、休息、睡眠がとれるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が理解しているとはいえないが、服薬後の症状の変化などについては、注意を払い、スタッフ間で情報を共有している、その都度看護師、医師に報告している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じ、洗濯物量、食器片付け、畑の草取り、花植えなどを一緒に行う、又買い物、散歩などして、気晴らしの支援をしている		

自己・外部評価表（GHコスモピア高良内）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、買い物など希望を聞いて一緒にでかけている 家族と相談しながら一時帰宅への送迎支援を行っている	個別での外食レクを行い、食べたい物を食べてもらっている。気候のいい時は柳川まで遠出したり、弁当持参で遠足やピクニックなどもしている。希望があった時には洋服を買物に行ったり、マンツーマンでの支援も行う。年に3、4回は全体での外出レクを行い、それぞれにあった外出を楽しんでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布をもたれたり、お小遣いを預かるなどして、不自由さを少しでも感じられる事がないよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をして、時々家族や友人と会話されている方もいる 家族、知人に手紙を書かれたりしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さりげなくホーム内に、季節感が味わえるような飾りつけをしたり、季節の花を飾ったりしている、落ち着いて過ごしていただけるような空間づくりをこころがけている	棟の違うユニットによって、内装の雰囲気も異なっており、入居者に合わせた環境に配慮している。中央の広いリビングを中心に居室が配置され、天井も高く、風通しのよい造りである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の希望に添った空間作りを心懸けている、一人でいる事を望まれる方にもさりげなく見守りを行い孤独感が感じられない様に配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は自宅から持ってきてもらい、壁には、家族写真などを飾って居心地よい居室となっている	介護ベッドは事業所によって備え付けられており、入居者によってタンスや家族の写真などが持ち込まれ、それぞれの居心地のよい空間が作られている。全室防災カーテンも整備されており、防災対策もとられている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている、安全に生活できるよう工夫されている		